

台風の被害

合橋小六年

堀江

美味

今年の十月二十日、上空には大型の台風二十三号があばれていました。それは、私達家族を苦しめるほどの力でした。

その日、学校では大雨、暴風により学校から、自宅待機がでました。家に帰って、ビデオを見ながらボーッとしていました。昼の三時半ごろ、隣の祖父を探しにいき、外に出ました。坂を上がった所にたくさんの方が集まっています。みんな川を見ていました。かけよって川をのぞくと、今まで見たことのないような世界が広がっていました。水の量は何倍にも増え、木や葉がどろ水と一緒に流されていきました。これ以上続くと、あふれてきそうでした。

午後六時半ごろ、祖父に呼びだされて、はやめに晩ご飯を食べました。その時水は、もう川からあふれ、玄関にまでせまっています。みんなのくつがプカロンと浮かんでいま

した。祖父に
「長ぐつを持っていきい。

と言われたので、つかる前に取っておきました。
た。そして突然、「パチン」と停電しました。

グレイカーを上げてみたけど、なぜかまた
あぐもどりました。祖父のかい中電灯をかり

て、家のかい中電灯をとりにいきました。た
たみをふむと、「ピチヨピチヨ」と音がして、

しみこんでいきましました。二階に上がったも
テレビもつきません。停電して電気がつかない

か。たので、ゲームの明かりがとても明るか
「たです。たまに、階段の方を見たり、窓か

ら外を見ました。階段の部分は、床やたたみ
はもうっかかり、一階までおよんでいました。

窓の向こうは、祖父の車のライトまできて
いました。もう何も出来ないなと思いました。

それでも疲れて寝てしまいました。
翌朝、起きた時に布団をはねよけあわてて

外を見ました。水はひいたみたいでした。そ
して階段を見ました。家は私の家でしたが床

がちがいました。どろ氷色にパリパリになっ
ていました。ながぐつをはいて歩きました。
とりあえず外に出ました。そこは、大きな
木や葉が、家に置かれているかのような状態
でした。もう少し進んで周りを見わたしまし
た。「野尻は一体どうなっ
てしまったのか？」
と思いつつ、見てみると、私の家と同じこと
になっ
た。人がたくさんいました。「家はど
うな
ってしまっ
た？」と、外に出
てみんな見てい
ました。何も出来ずにいる時、近所のおじち
やんがたずねてきました。おじちやんと一緒
に、車庫をそうじしました。水を流してブラ
シでみがきました。みるみるうちに、元の車
庫にもどっ
ていきました。おじちやんは、
「家が気になるから帰るわい。」
と、言っ
たので、
「うん。ありが
う。」
と、言
いました。
次は近所ではな
いけど、知っ
ているおば
ちやんがきました。
「おばちやんとは、家の中を

テッテ一的に雑巾でふきました。私の父は、
消防署に勤務しているのので、自分の家には帰
れない状態でした。だからいろんな人が来て
くれました。大量のバケツを持ってきて、水
をくみ雑巾をぬらしてふいていきました。昼
食は、午後三時ごろになりました。どんどん
元の姿に変わっていきました。たたみもかえ
ました。きれいになってふつう通り住ごせる
ようになったのは、十一月に入ってからだっ
たと思います。もうこんな被害は、あってほ
しくないです。